

逃げ地図づくりワークショップマニュアル  
(防災まちづくり版)  
Ver6

2017年8月

逃げ地図づくりプロジェクトチーム

# 目次

このマニュアルの使い方

## 1. 逃げ地図づくりワークショップ

- 1-1 目的を再確認する
- 1-2 参加対象者を確認する
- 1-3 テーマを設定する
- 1-4 実施体制を整える
- 1-5 プログラム案を作成する
- 1-6 班構成を検討する
- 1-7 スタッフの役割分担を決める
- 1-8 アンケート票を作成する
- 1-9 ワークショップを連続開催する

## 2. 逃げ地図のつくり方

- 2-1 作成範囲を設定する
- 2-2 白地図を用意する
- 2-3 避難目標地点を設定する
- 2-4 避難障害地点を設定する
- 2-5 皮ひもと色鉛筆を用意する
- 2-6 避難時間を可視化する
- 2-7 避難方向を図示する

### ☆災害種類別の逃げ地図作成のポイント

- 1 津波からの逃げ地図作成のポイント
- 2 土砂災害からの逃げ地図作成のポイント
- 3 地震火災からの逃げ地図作成のポイント
- 4 複合災害からの逃げ地図作成のポイント

## 3. 逃げ地図の活用

- 3-1 共同で現場を点検する
- 3-2 逃げ地図を展示・配布する
- 3-3 避難訓練を実施する
- 3-4 イベントを開催する
- 3-5 避難計画を作成する
- 3-6 緊急避難場所を指定する
- 3-7 避難場所や避難経路を整備・管理する
- 3-8 地区防災計画を立案する

## このマニュアルの使い方

逃げ地図づくりは、リスク・コミュニケーションを促進するための手段であり、目的ではありません。つまり、作成した逃げ地図を使って何を実現するかが重要であり、逃げ地図はその過程の成果物のひとつです。したがって、逃げ地図づくりワークショップの準備と作成した逃げ地図を活用した取り組みが重要です。

このマニュアルは、その地域において想定される津波や土砂災害など多様な災害からの逃げ地図づくりワークショップを通して、避難に関するリスクと地域社会の脆弱性を認識し、地域の構成員が互いに協働して災害の被害を少なくする防災まちづくりを促進するためにまとめたものです。

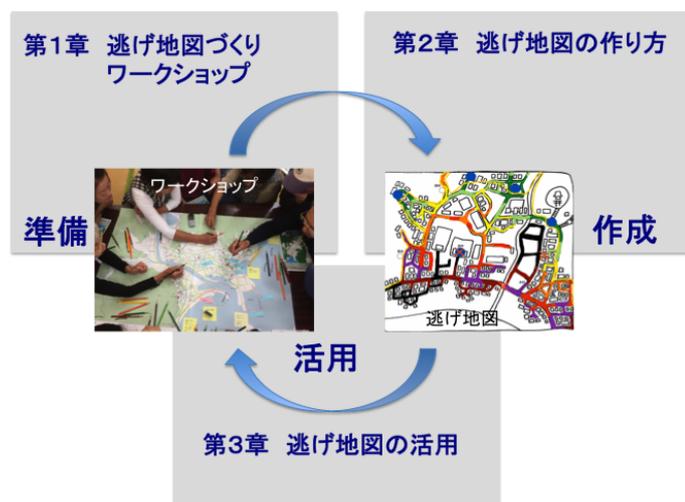
全部で28項目あります。どの項目も冒頭の記事を読めば、手順や方法などをチェックすることができますので、一読してください。その下にある文章などはその解説文です。

第1章は、逃げ地図づくりワークショップの準備についてまとめています。ワークショップを行う前に必ず一読してください。

第2章は、逃げ地図の作り方についてまとめています。逃げ地図は一人でも作成可能ですので、ワークショップの事前準備として試しに作成してみてください。

第2章と第3章の間にある「☆災害種類別の逃げ地図作成のポイント」はその地域で想定される災害の種類を定めたら、一読してください。

第3章は、逃げ地図の活用についてまとめています。ワークショップの目的や参加者の対象を再確認するためにも、ぜひワークショップの準備段階で一読することをお勧めします。



# 1. 逃げ地図づくりワークショップ

- 1-1 目的を再確認する
- 1-2 参加対象者を確認する
- 1-3 テーマを設定する
- 1-4 実施体制を整える
- 1-5 プログラム案を作成する
- 1-6 班構成を検討する
- 1-7 スタッフの役割分担を決める
- 1-8 アンケート票を作成する
- 1-9 ワークショップを連続開催する

## 1-1 目的を再確認する

- 逃げ地図ワークショップは、地図作成その自体が目的ではなく、リスク・コミュニケーションの手段であることから、ワークショップの開催の目的を確認する必要がある。
- ワークショップの開催の目的としては、防災意識の啓発、避難に関する課題の抽出、避難場所・避難経路の検証、地区防災計画の立案などがある。

### ■ リスク・コミュニケーションの手段

### ■ ワークショップ開催の目的



### ■ 逃げ地図づくりはリスク・コミュニケーションの手段

- ・ 逃げ地図ワークショップの成果として、色の塗られた逃げ地図ができあがるが、地図の作成それ自体が目的ではなく、あくまでもリスクコミュニケーションの手段である。
- ・ リスク・コミュニケーションとは、リスクに関する正確な情報を関係主体間で共有し、相互に意思疎通を図ることをいう。
- ・ 逃げ地図ワークショップの開催にあたっては、何のために逃げ地図をつくるのか、主催者の間で確認することが重要である。

### ■ ワークショップ開催の目的

- ・ 逃げ地図ワークショップの開催の目的は、次のようなものが挙げられる。

#### 1 住民等の防災意識の啓発

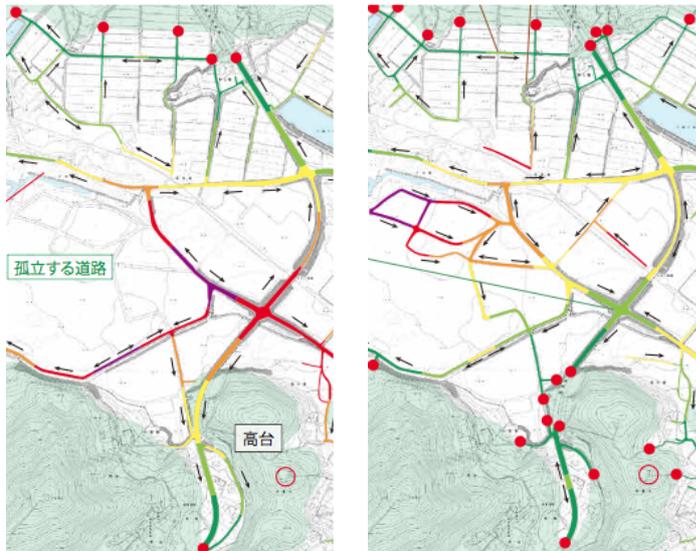
ハザードマップを見て防災について話し合う機会を創出するために開催する。

#### 2 避難に関する課題の抽出

避難場所・避難経路の検討をはじめ、徒歩による避難、要援護者の避難など、避難に関する課題を抽出するために開催する。

(事例)

- ・ 陸前高田市小友町では、車を使った避難に関する課題を具体的に把握するため、車による避難と徒歩による避難の2グループに分かれて逃げ地図を作成し、交差点における消防団による避難誘導方法、避難経路を表示する標識の設置等の課題を抽出した。



陸前高田市小友町で作成した逃げ地図

左図：車で避難可能、右図：徒歩のみ避難可能

### 3 避難場所の検証

市町村などが指定した避難場所が適切な位置にあるかを検証するために開催する。

(事例)

- ・ 下田市旧市街地では、指定した津波避難ビルの位置とそれによる避難時間の短縮効果を検証するため、高台にのみ避難するグループと津波避難ビルへの避難も可とするグループに分かれて逃げ地図を作成し、交差点における消防団による避難誘導方法、避難経路を表示する標識の設置等の課題を抽出した。

### 4 避難経路の検証

避難場所に至る避難経路の安全性や避難時間が最短の避難経路を検証するために開催する。

### 5 避難計画の立案

避難場所の指定や避難経路の整備、避難訓練、要援護者の避難方法などを定める避難計画を立案するために開催する。

### 6 地区防災計画の立案

地区独自の避難計画などを市町村の地域防災計画において位置づけた地区防災計画を立案するために開催する。

## 1-2 参加対象者を確認する

- 逃げ地図ワークショップは、その開催の目的と照らし合わせつつ、できる限り多様な関係主体の参加を得ることが望ましい。
- 避難場所の検証や避難計画の立案などを目的とする場合は、消防団など地域の実情に詳しい参加者を得ることが望ましい。

- 逃げ地図の展示・掲示
- 逃げ地図の書き直し(リライト)



### ■多様な関係主体の参加

- ・ 逃げ地図ワークショップは、リスクコミュニケーションの手段であることから、性別や世代に偏りがなく、できる限り多様な関係主体が参加することが望ましい。
- ・ 防災意識を啓発し、避難に関する課題を抽出する上でも、属性や立場の異なる多様な関係主体の参加を得て、様々な意見を出し合い、相互の意思疎通を図ることが望ましい。
- ・ 特に、青少年と高齢者の両者の参加は、世代間の交流や次世代の育成の観点から重要である。

### ●参考事例

- ・ [下田市吉佐美地区](#)では、吉佐美区が指定した避難場所を検証するとともに、避難に関する課題を抽出するため、吉佐美区の理事や民生委員、防災委員のほか、朝日小学校のPTA役員（女性）や下田中学校の女子中学生の参加を得て開催された。その結果、多様な観点から避難に関する意見が出された。
- ・ [陸前高田市米崎町地区](#)では、NPO 法人再生の里・ヤルキタウンが主催した防災イベントの企画の一つとして逃げ地図ワークショップが行われ、子どもから高齢者まで多様な世代の参加を得たほか、消防関係者や警察関係者も参加し、多様な関係主体が避難に関する地域の状況を共有することができた。
- ・ [陸前高田市広田町地区](#)では、3回連続ワークショップを開催し、第1回は中学生、第2回は消防団、第3回は漁協女性部をそれぞれ主な対象者として参加を呼びかけた。



陸前高田市米崎町の逃げ地図づくりワークショップ

■地域の実情に詳しい関係主体の参加

- ・ 逃げ地図ワークショップは、指定された緊急避難場所以外の場所への避難や階段・通路等を経た避難も検討するため、それらに関するできる限り正確な情報を得る必要がある。
- ・ 逃げ地図ワークショップは、災害からの避難のリスクに関する正確な情報を関係主体間で共有するため、避難場所や避難経路に関する地域の実情に詳しい関係主体の参加を得ることが望ましい。

(事例)

- ・ 陸前高田市広田町では、第1回のワークショップで中学生らが作成した逃げ地図をベースに、第2回のワークショップで消防団員らがそれを点検・修正して、より正確な情報に基づいた逃げ地図を作成した。

広田小学校 PTA、広田保育園父母会、  
そして、広田町にお住まいの皆さん



復興・広田町の逃げ地図を  
一緒につくりましょう

平成26年 8月5日(火) 午後1時～5時  
会場：陸前高田市立広田小学校 ホール・図工室・音楽室等

県道や防潮堤の整備、高台移転後の広田町の地図に、津波からの避難場所や避難経路を書き加える「逃げ地図」をみんなでつくしましょう。



主催：広田地区集団移転協議会  
後援：陸前高田市、明治大学震災復興支援センター  
協力：広田小学校、広田保育園、消防団広田分団 など

↑写真は昨年9月に高田東中学校で開催した逃げ地図づくり。

第2回 逃げ地図づくりからの動きを考える！  
平成26年 8月24日(日) 午後1時半から  
会場：陸前高田市立広田小学校 体育館



2014.8.5@ 広田小学校

8月5日(火)に子供達を中心となって長洞・大陽・大野・田谷・喜多・泊・中沢浜・根岬の津波到達点までの所要時間がわかる逃げ地図をつくりました。これをもとに、もう一度避難対策について話し合いませんか？

— 前回は、このような意見ができました！ —

- ・ 逃げ道案内の看板づくりが必要なのは？
- ・ 住民に認識されていない避難場所もあるのでは？
- ・ 復興事業により環境が変わるので、避難場所をもう一度見直す必要があるのでは？
- ・ 海上からの逃げ方も考える必要があるのでは？

いずれは  
広田に戻りたい！

中学生のアツイ言葉

主催：広田地区集団移転協議会  
後援：陸前高田市、明治大学震災復興支援センター  
協力：消防団広田分団、広田小学校、広田保育園、など

- ・ [高知県黒潮町浜町地区](#)では、最近整備された避難階段がベースマップに表示されていないため、避難階段の整備情報に詳しい町役場や消防団などの関係主体がベースマップをチェックした上で、逃げ地図づくりワークショップを行った。



## 1-4 実施体制を整える

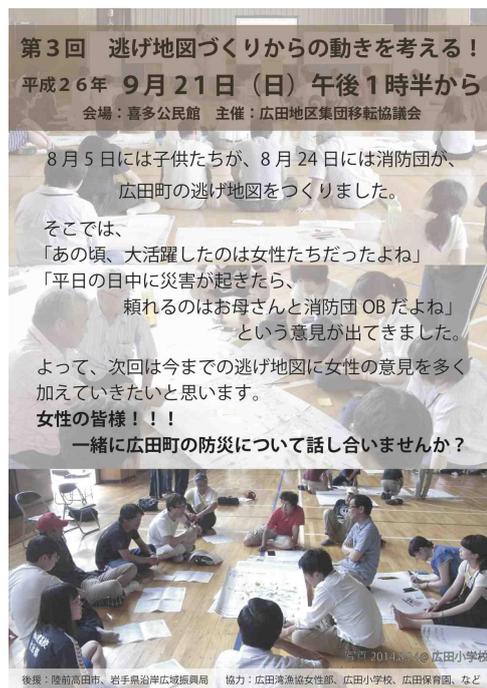
- 逃げ地図ワークショップは、地元の関係主体の団体が主催することが望ましい。
- 作成した逃げ地図の活用を視野に入れ、市町村等の行政機関の後援を得ることが望ましい。

### ■地元関係団体による主催

- ・ 逃げ地図ワークショップは、外部支援団体の全面的な協力を得る場合であっても、自主防災活動を推進するため、地元の関係主体の団体が主催することが望ましい。

### ●参考事例

- ・ [陸前高田市小友町地区](#)では、消防団の発意で逃げ地図ワークショップが企画されたが、広く地元住民やPTA関係者の参加を得るため、小友地区コミュニティ推進協議会と陸前高田市消防団小友分団が主催することにした。



### ■行政機関の後援

- ・ 作成した逃げ地図を活用した避難計画の立案や避難場所の整備などを視野に入れ、市町村や都道府県の関係部局の後援を得ることが望ましい。

### ●参考事例

- ・ [陸前高田市広田町地区](#)では、広田地区集団移転協議会が逃げ地図ワークショップを主催し、広田漁協女性部や広田小学校、広田保育園の協力を得て女性の参加を得た。地元住民が主体となり、逃げ地図づくりを起点とした防災の取り組みをすすめるため、陸前高田市と岩手県沿岸広域振興局の後援を得た。

## 1-5 プログラム案を作成する

- 基本的なプログラムは、ガイダンスをした後、避難目標地点と避難障害地点を確認して色を塗り、作成した逃げ地図を見て話し合い、その成果を発表しあう。
- 逃げ地図を作成する時間は、被災区域の面積や道路の密度に応じて異なるが、逃げ地図をもとにした話し合いの時間を十分にとるには、逃げ地図づくりワークショップは全体で最低2時間必要である。
- プログラムの内容や時間配分を点検するため、事前に逃げ地図を作成して試みるのが望ましい。

### ■基本的なプログラム

- ・ 逃げ地図づくりワークショップの基本的なプログラムは、次の①～⑤である。このうち、②～④は複数の班に分かれてグループワークを行う。

#### ① ガイダンス

- ・ 逃げ地図づくりの目的とテーマ、逃げ地図の作成方法などについて簡潔に説明する。
- ・ 逃げ地図の作成方法の理解を促すため、他地区の事例や動画を見せると良い。

#### ② 避難目標地点と避難障害地点の確認

- ・ 用意した地図とハザードマップをよく見ながら、避難目標地点に●印、避難障害地点に×をつける。
- ・ 色塗りや意見交換の時間を確保するために、事前に避難目標地点の候補を鉛筆などでチェックしておくが良い。

#### ③ 避難時間と避難方向の図示

- ・ 避難目標地点から逆算して3分ごとに緑・黄緑・黄・オレンジ・赤の順に色分けする。
- ・ 色分けした地図に、避難目標地点に最も早く到達できる方向の矢印(→)を入れる。

#### ④ 逃げ地図を見て意見交換

- ・ 作成した逃げ地図を見て気がついたことなどを意見交換する。
- ・ 出された意見は、用意したポストイットにメモ書きして、逃げ地図に貼る。
- ・ あらかじめ意見を出しやすいように、問いを用意しておくが良い。例えば、避難に時間がかかる場所や避難しにくい場所はどこか。災害時要援護者の避難誘導や避難階段整備などの課題は何かなど。

#### ⑤ 成果の発表

- ・ 作成した逃げ地図を展示して、得られた成果を発表し合う。
- ・ 設定条件の異なる逃げ地図を作成した場合は、色分けの違いなどを比較するとよい。

### ■ワークショップの総時間と時間配分

- ・ 逃げ地図を作成する時間は、被災区域の面積や道路の密度に応じて異なるが、これまで各地で行ってきたワークショップを振り返ると、避難目標地点の設定から避難方向の図示までの逃げ地図作成に概ね1時間程度はかかる。
- ・ ガイダンスに20分、発表会に20分、逃げ地図をもとにした話し合い20分をかけるとすると、逃げ地図づくりワークショップは全体で最低2時間必要である。

### ■事前の逃げ地図の作成

- ・ プログラムの内容や時間配分を点検するため、事前に逃げ地図を作成して試みるのが望ましい。
- ・ 特に、津波以外の災害や複合災害からの逃げ地図づくりは、判断に迷うケースもあるため、事前に作成して試みるのが重要である。

●参考事例：黒潮町明神地区逃げ地図作成ワークショップ

平成 27 年 10 月 24 日（土）15：15～17：00 会場：漁民センター

主催：明神地区自主防災組織 後援：黒潮町

協力：明治大学都市計画研究室、子ども安全まちづくりパートナーズほか  
(プログラム)

1	開会あいさつ	15：15
2	ガイダンス：逃げ地図の作成方法と事例紹介	15：20
3	グループワーク	
(1)	自己紹介（自宅の位置の確認）	15：35
(2)	地図と避難目標地点・想定条件の確認(10分)	15：40
	1班：高台（海拔 20m）と道路・階段等の交点までの避難	
	2班：晴天昼間時の指定避難場所までの避難	
	3班：雨天夜間時の指定避難場所までの避難	
	● 避難目標地点（●）の確認と設定	
	● 避難障害地点（×）の設定	
(3)	逃げ地図（避難地形時間地図）の作成（30分）	15：50
	● 測定用ひもの長さ（129m）と色の塗り方の確認	
	● 避難の最短ルートの色塗り確認	
	（特に、交差点など2方向に避難ルートがある場合）	
	● 参加者による地図の色塗り	
	● 色を塗った後、避難方向の矢印（→）を記入	
(4)	逃げ地図を見ながら話し合い（15分）	16：20
	● 避難に時間がかかる場所	
	● 避難しにくい場所	
	● 災害時要援護者の避難誘導	
	● 避難道路などの整備課題	
	● 津波避難計画の検証など	
4	発表会（3分/班×3班＋意見交換、20分）	16：35

## 1-6 班構成を検討する

- 逃げ地図づくりのグループワークは、一班あたり 4～8 名で編成することが望ましい。
- 範囲が広くて逃げ地図づくりの作業時間がかかる場合は、班ごとに区域を分けるとよい。
- 班によって避難目標地点などの設定条件を変えて逃げ地図を作成して比較するとよい。

### ■グループワークの人数

- ・ 会議の目的によって異なるが、その人数は一般に 4～8 人が適正であり、多くても 10 人までが望ましいとされている。
- ・ 逃げ地図づくりのグループワークも、ワークショップ参加者が 8 人を超える場合は、一班あたり最小 4 人、最大 8 人として構成することが望ましい。
- ・ グループワークの人数があまり少ないと、色塗り作業に時間がかかる上、様々な立場からの多様な意見を交換できにくい。一方、あまり多いと、色塗り作業に参加できない人が生じるし、参加者全員の意見を聞いたり、出し合ったりすることが難しい。

### ■班の分け方

- ・ 作成する逃げ地図の範囲が広い場合は、地形や学校区等の区域のまとまりに留意して、班を分けることが望ましい。
- ・ グループワークの班は、ワークショップの目的に応じて、想定する災害の状況や避難目標地点等の設定条件を変えて作成した逃げ地図を互いに比較するようにすると良い。

### ●参考事例

- ・ [陸前高田市立高田東中学校区](#)では、米崎・小友・広田の各小学校区に分け、さらに参加者人数の多い米崎小学校区は避難目標地点の設定条件を指定避難所（小中学校）に通じる通路の有無によって分けた。
- ・ 陸前高田市小友町地区では、東西 2 地区に区域分けした上、車両通行の可否によって避難目標地点の設定条件を分けて、4 つの班を構成した。
- ・ [下田市白浜地区](#)では、3 班に分かれ、それぞれの避難目標地点を、①海拔 20m と道路等との交点、②海拔 10m と道路等との交点、③自主防災組織が指定した緊急避難場所として逃げ地図を作成した。

表 陸前高田市で開催された逃げ地図作成WSにおける避難に係る条件の設定

地区名	WS実施日時	避難目標地点設定条件	避難障害地点設定条件	その他逃げ地図作成条件
高田東 学区	2013/09/22 13:30-16:00	1 東日本大震災時の津波遡上ラインとの交点 2 現況の土地利用	米崎町の河川・水路に架かる橋梁は一律通行不能として設定した。	米崎町/小友町/広田町の3地区に分け、米崎町のみ左記A,Bの条件で作成した。
		A 避難所への通路あり		
小友町 地区	2014/03/15 14:00-16:30	1 東日本大震災時の津波遡上ラインとの交点 ② 現況の土地利用	特に設定なし (該当する橋梁がなかったため)	小友町を東西2地区に分け、それぞれ左記A,Bの条件で作成
		A 車両通行可道路のみ		
広田町 地区	2014/08/05 2014/08/24 2014/09/21	1 東日本大震災時の津波遡上ラインとの交点 ② 震災復興事業(高台移転・防潮堤・県道等の整備)完了後の土地利用	特に設定なし (該当する橋梁がなかったため)	町内7地区に分けて作成。WSは連続開催したが、同一地図に修正加筆
米崎町 地区	2014/10/17 2014/12/07	1 東日本大震災時の津波遡上ラインとの交点 ② 震災復興事業(高台移転・防潮堤の整備)完了後の土地利用	特に設定なし(復興事業に合せた架橋検討の必要性が高かったため)	12/07は町内3地区に分けて作成。

表 下田市・河津町で開催された逃げ地図作成WSにおける避難に係る条件の設定

地区名	WS実施日時	避難目標地点設定条件	避難障害地点設定条件	その他逃げ地図作成条件
下田中 学区	2014/02/14 13:30-15:20	① 海拔20m(想定津波遡上ライン)と道路通路の交点	河川に架かる橋梁は一律通行不能として設定 (河津・吉佐美も同様)	学区内を5地区に分け旧市街地3地区のみ左記A,Bの条件で作成
		A 避難ビルへ避難不可		
河津中 学区	2014/12/11 13:00-15:00	① 海拔20m(想定津波遡上ライン)と道路通路の交点	河川に架かる橋梁は一律通行不能として設定 Aは土砂災害を考慮	学区内を5地区に分けうち2地区は左記のBの条件で作成・比較。
		A 土砂災害を考慮		
吉佐美 地区	2014/12/11 19:00-21:00	① 地元指定の緊急避難場所	土砂災害による通行止めは適宜設定	4班が左記A,Bの条件で2班ずつ分かれて作成
		A 土砂災害を考慮		
河津南 小校区	2015/02/04 13:15-15:00	1 海拔20mとの交点 2 学校屋上避難不可	河川に架かる橋梁は一律通行不能として設定 Aは土砂災害を考慮	学区内を3地区に分け11班が左記A,B及び②の条件で作成。
		A 土砂災害を考慮		
下田白 浜地区	2015/02/04 20:00-21:00	A 海拔20mと道路等の交点 B 海拔10mと道路等の交点 C 地元指定の緊急避難場所	特に設定なし。土砂災害についてはWS中に意見を求めた。	3班に分かれて左記A,B,Cの条件で作成。

出典：山本俊哉・白幡玲子・山中盛・井上雅子・大崎元・羽鳥達也・木下勇「逃げ地図作成ワークショップにおける避難に係る条件の設定方法—逃げ地図を活用した津波防災まちづくりに関する研究(4)—」日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集, 2015年9月6日

## 1-7 スタッフの役割分担を決める

- 全体の進行管理のほか、各班に逃げ地図づくりを経験したことのあるファシリテーターを配置することが望ましい。
  - 全体の進行状況や成果を記録するほか、各班で出された意見を記録するスタッフをつけることが望ましい。
- 全体の進行管理とファシリテーション
    - ・ 限られた時間内で逃げ地図づくりワークショップをプログラム通りに進行管理するためには、タイムキーパーになる全体進行係を置く必要がある。
    - ・ 各班には、逃げ地図づくりの研修を受講した人または過去に逃げ地図づくりを経験したことのある人をファシリテーターとして配置することが望ましい。
  - ワークショップの記録
    - ・ 逃げ地図成果の成果を広く共有するためには、逃げ地図づくりワークショップの記録を残しておく必要がある。写真や動画を撮影する他、発表された意見を記録しておくことが重要である。
    - ・ 各班で出された意見は、参加者自身が付箋紙に書いて逃げ地図上に記録することが基本であるが、学生ボランティアなどのスタッフを確保できる場合は、各班に記録係をおくことが望ましい。
    - ・ 各班のファシリテーターが記録係を兼ねることも可能である。

参考：逃げ地図づくりワークショップのスタッフの役割分担表

No.	氏名	○○地区	○○地区
1		全体進行	ファシリテーター (①)
2		全体記録	全体進行
3		ファシリテーター (①)	記録係 (①)
4		ファシリテーター (②)	記録係 (②)
5		ファシリテーター (③)	ファシリテーター (③)
6		記録係 (②)	ファシリテーター (②)
7		記録係 (①)	全体記録
8		記録係 (③)	記録係 (③)

班編成

	1 班 (昼間：高台のみ)	②班 (昼間：避難ビル含む)	③班 (夜間：避難ビル含む)
ファシリテーター			
記録係			

## 1-8 アンケート票を作成する

- アンケートは、参加者の満足度等を把握し、今後の展開を検討する上で重要である。
- アンケートの内容は、必要最低限のものに絞り、A4用紙1枚程度にまとめることが望ましい。
  
- アンケートの必要性
  - ・ 逃げ地図ワークショップ参加者の満足度等を把握して、今後の展開を検討するために、アンケートをとることは重要である。
  - ・ 参加者一人ひとりの評価や意見を把握し、男女や世代などの属性別の傾向を見る上でも有効な手法である。
  
- アンケートの内容
  - ・ アンケートは、気軽に回答しやすいように、質問項目は多くても3～4問程度と回答者の属性など必要最低限のものに絞り、A4用紙1枚程度にまとめることが望ましい。
  - ・ アンケートの内容は、次なる展開を検討するため、参加者の満足度のほか、今後の避難対策や会合などへの参加意向を把握すると良い。
  - ・ 回答は、選択式をとるものの、自由記入の意見の記載が重要であることから、簡単でもコメントを書いてもらうスペースを設けると良い。

## 〇〇地区 逃げ地図作成に関するアンケートのお願い

本日おこなった逃げ地図づくりについて、ご感想・ご意見をお聞かせください。

- 1) 逃げ地図づくりは、津波からの避難に役に立つと思いますか？ (○は1つ)  
( ) 役に立つと思う ( ) 役に立たないと思う ( ) どちらともいえない

ご意見

- 2) 逃げ地図作成を通して避難計画などの対策が必要だと思いませんか？ (○は1つ)  
( ) そう思う ( ) そう思わない ( ) どちらともいえない

ご意見

- 3) 今回のような話し合いが次回あれば、参加したいと思いますか？ (○は1つ)  
( ) 参加したい ( ) 参加したくない ( ) どちらともいえない

ご意見

- 4) そのほか、逃げ地図や避難計画についてご意見などがありましたら、お書きください。

ご意見

・性別 ( 男性 ・ 女性 )

・居住地 ( 〇〇地区内 ・ 〇〇市内 (〇〇地区以外) ・ 市外 )

・年齢 (10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代以上)

ご協力をいただき、ありがとうございました

## 1-9 ワークショップを連続開催する

- ワークショップは、1回限りのイベントに終わらせず、成果と課題を共有して対策を講じるため、連続開催することが望ましい。
- ワークショップを連続開催するには、その都度成果と課題を整理して次回に備えることが重要である。

- 連続開催の必要性
- 成果と課題のとりまとめ



- ワークショップは、1回限りのイベントに終わらせず、成果と課題を共有して対策を講じるため、連続開催することが望ましい。
- ワークショップを連続開催するには、その都度成果と課題を整理して次回に備えることが重要である。

### ■ 連続開催の必要性

- ・ 逃げ地図づくりワークショップは、参加者の防災意識の向上などを目的としたイベントとして開催することも有意義であるが、実施しただけで終わらないことが重要である。
- ・ 逃げ地図づくりワークショップは、得られた成果と課題を共有し、それをもとに対策を講じるため、連続開催することが望ましい。
- ・ 逃げ地図づくりワークショップの開催にあたっては、事前に次回開催の日程
- ・ を検討し、終了時に次回開催の案内をすることが望ましい。

### ■ 成果と課題の取りまとめ

- ・ 逃げ地図づくりワークショップを連続開催するには、作成した逃げ地図の書き直し（リライト）や発表内容や意見交換の記録の作成など、その都度得られた成果と課題を整理して次回に備えることが重要である。
- ・ 作成した書き直し（リライト）の方法は、「3-2 逃げ地図を展示・配布する」に詳しい。
- ・ 逃げ地図のリライトは望ましいが、必須事項ではない。重要なことはそのワークショップを通して何が得られて何が課題として浮かび上がったかを整理して示すことが重要である。

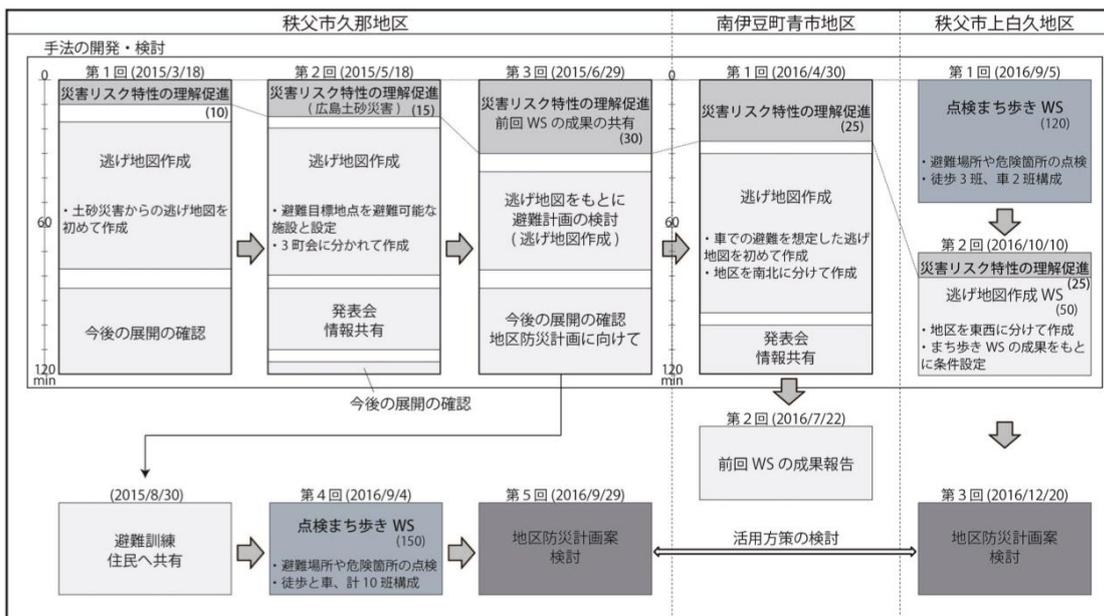
### ● 参考事例

- ・ [陸前高田市広田町地区](#)では、広田地区集団移転協議会が逃げ地図づくりワークショップを3回連続開催し、1回目は主に中学生が参加し、2回目は主に消防団員が参加して中学生が作成した逃げ地図を修正加筆した。3回目は主に漁協女性部員が参加して女性の視点から見た避難上の課題と留意点を逃げ地図に追加した。その都度作成した逃げ地図を修正加筆し、その成果を取りまとめて報告するワークショップを開催した。その後、広田地区集団移転協議会の中軸を担ってきた

田谷地区集団移転協議会は、「こながに会議」と題して、作成した逃げ地図の成果を踏まえて被災した低地の土地利用に関するワークショップを重ねた。田谷地区集団移転協議会はこのほか、逃げ地図を活用した避難に関するイベント「キツネを探せ」や風力発電による自前の電源確保や集会施設の建設などの取り組みが高く評価され、2016年度の第21回防災まちづくり大賞消防庁長官賞を受賞した。



- ・ [秩父市久那地区](#)では、作成した逃げ地図をもとに避難計画の検討を重ね、地区防災計画の立案に至っている。[秩父市上白久地区](#)などの他地区でも久那地区にならってワークショップを連続開催し、地区防災計画の立案に向け、避難計画の検討を重ねている。



- 土砂災害からの逃げ地図づくりワークショップの連続開催